

大麥(皮,稈)類の品種鑑別上より見たる特性(豫報)

特に生育期に於ける二三の特性

金 川 修 造

宮崎縣立農事試験場

出穂前に於ける大麥品種の特性に関しては、調査、研究の發表が餘り多くない。特に早期に於ける品種の鑑別法に就ては、特性調査が之等の細かい點迄行はれていない爲に、當場に於ても品種の見分け方は、多年の經驗を得なくてはならない現状である。

私はかゝる主觀的經驗的鑑別法を、より客觀的抽象的鑑別法に體系づける事を目的とし、特性調査を今麥作期間觀察を主體として實施中であるが、當場に於て未だ實施されていない、出穂前の特性に就いて、二、三興味ある問題にふれたのでその成績を發表する事とする。

もとより本報が、觀察程度の調査で、量的に之等の特性を分析するに至らないが、主に參考程度として、當該作物を擔當せられる諸先輩の検討並に御指導を仰ぎ、今後の發展に資する事を祈念する次第である。

調査材料並に方法の概要

(1) 供試品種 15品種並に系統(皮麥2, 稈13)……以上は當場で今期栽培された全品種である。

(2) 調査期日 圃場觀察は常時行い、觀察し得た特性を記録し、下記の期日に上記品種並に系統に就き、一齊に調査を行つた。

第1回 3月4日, 第2回 3月19日。

(3) 調査項目

- 1 葉鞘の毛の有無。 2 葉鞘の毛の疎密。
3 葉鞘の色素。以上 fig.1 参照。

以上第1回の調査項目である。第2回は更に綿密な調査を行はんとして下記項目を附加した。

- 4 葉舌の形(註1)。 5 葉舌の長短。
6 葉耳の形(太さ)。 7 葉耳の長短。
8 葉耳の開度(註2)。

(註1) 葉舌は主程中完全展開葉から4, 5枚目の葉舌を比較、更に最上位の完全展開葉から、下位の綠色葉全部に就て、觀察比較した。

(註2) 主程完全展開葉の最上葉から3, 4枚の觀察の平均。尙葉耳の開度は fig.2 の階級により分級した。

fig 2



調査の成績

番 號	品 種 名	第 1 回 調 査 項 目			第 2 回 調 査 項 目							
		1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8
1	早 取 稈	有	密	ム	有	密	ム	弧型	短	稍太	短	小
2	三 月 稈	無	—	稍淡紅	無	—	淡紅	弧型	中	稍細	稍長	中
3	宮 崎 稈	無	—	無	無	—	無	弧型	中	稍太	中	大
4	一 早 生	有	稍密	無	有	稍密	無	弧型	短	太	中	小
5	(ウ) 6.4.B	無	—	淡紅	第 2 回							
6	(ウ) 12.2.2.	無	—	紅	調 査 を 欠 く							
7	新 明 石	無	—	無	無	—	無	弧型	中	太	中	中
8	小 鮭 1 號	有	疎	稍淡紅	有	疎	極めて	中間	長	中	稍大	稍大
9	佐 賀 大 粒	無	—	無	無	—	無	中間	長	太	稍長	小
10	寺 岡	有	疎	稍淡紅	有	疎	淡紅	中間	長	太	稍長	稍大
11	ね ぢ れ 2 號	無	—	無	無	—	無	中間	短	中	短	大
12	九 州 稈 1 號	無	—	淡紅	無	—	淡紅	弧型	中	太	稍長	稍大
13	島 原	有	疎	淡紅	有	疎	淡紅	弧型	中	中	中	大
14	魁 (皮麥)	無	—	極めて	無	—	極めて	山型	中	細	中	中
15	一 皮 (皮麥)	有	疎	無	有	疎	幾分	山型	長	細	長	中

註 調査項目中1, 2, 3……は上記調査項目の番號である。

考 察

(1) 葉鞘の毛の有無中早取稈、一早生、島原は毛茸が有り、毛茸のある個體が混在して認められる品種(有十ム)には、小鱈1號、寺岡、一皮が屬し、他の品種では認められない。上記(有十ム)に屬する品種は遺傳的に純系と考へられないのでなからうか。

(2) 葉鞘の毛は止葉から4、5枚目以下の葉鞘に認められるがそれ以上の葉位の葉鞘には認められない。

(3) 葉鞘の色素は同一品種個體間にかなり變異があるが、群落としては明かに品種間差異を認めた。

(4) 葉舌の型並に長短は品種間差異が極めて明かであり、(fig.3, fig.4)完全展開葉の葉舌なら同一品種、或は葉位に依る變異少く、葉鞘の毛の有無と共に品種間差異を現す重要な特性と考へられる。然も芽鞘の長いもの(長型群)に屬する品種に、葉舌の長いものが多い。即ち、寺岡、小鱈1號、佐賀大粒、一皮はいづれも、芽鞘の長さから云へば、長型群に屬する。

(5) 葉耳の型は皮麥一皮、魁一は極めて細く長い、特に前者は長い。其の他の品種に於て、明瞭な差異を抽象的に現し得ないが、長型群は一般に長いようであつた。

(6) 葉耳の開度も葉位に依り極めて變異に富むので、明瞭な特徴として上げられないが、特に著しい差異を示す品種がある。

例 宮崎稈、島原……以上大。
早取稈、一早生、佐賀大粒……以上小。

fig 1 葉鞘の毛茸

品種早取稈

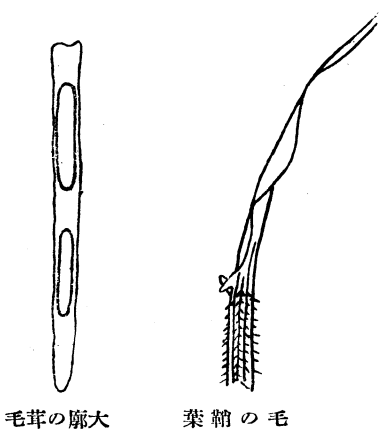
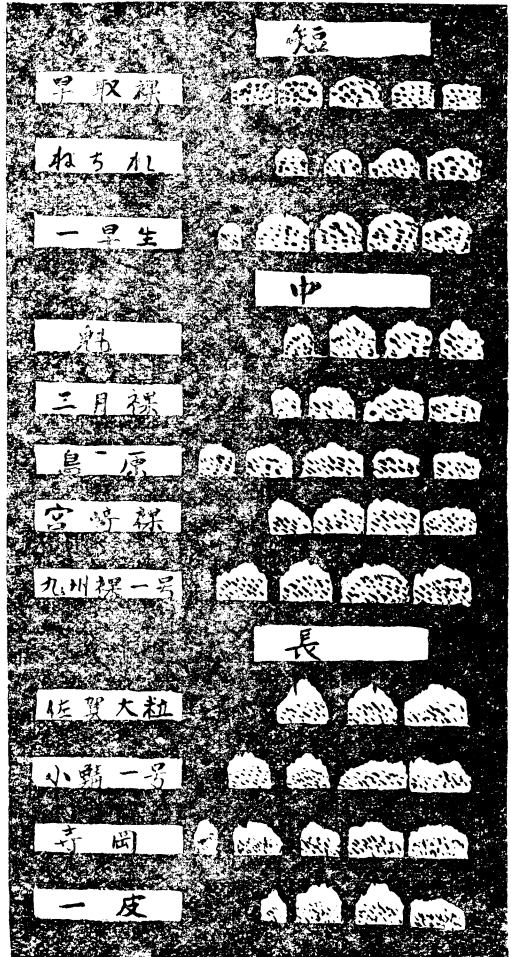


fig 3 大麥類の葉舌の形



以上の成績並に考察の結果からして、葉鞘の毛の有無、葉舌の型並に長短、葉鞘の色素は品種鑑別上に最も明瞭な差異を現す特性として考へられるのでなからうか。亦葉長、葉巾等も、品種間差異の一特性として考へられるが、現在調査中であるから本報は一應現在迄の成績を發表して置く事にする。

(説明) fig.4 は主程中、3月19日に於ける完全展開葉の最上葉から4、5枚目の葉舌。

fig.3 は主程中、完全展開葉から順次下位葉の葉舌を切取つた標本。

右から左に向つて最上葉から下位葉に及ぶ葉舌の型を示す。

fig 4

大麥類の葉舌の形

